

第4回勝山市上下水道料金制度審議会会議録

開催日時	令和3年10月25日(月)午後2時00分～午後4時00分
開催場所	勝山市役所 3階 第2、3会議室
出席者(委員)	12名
出席者(市側)	5名
欠席者	1名

会議経過

開会 (進行 事務局)

1. 審議会会長あいさつ
2. 前回(第3回)の議事録の確認

会長:5ページの私の発言である料金回収率が9割程度で1割を回収できていないとあるが1割は10割ではないか。

事務局:料金回収率が90%程度で残り10%を回収できていないに修正する。

委員:議事録に付随して、何点か質問がある。

平泉寺の滝の堂について、イノシシの死骸によってクリプトスポリジウムが発生したと聞いたが、死骸の処分をどうしたのか。また、クリプトスポリジウムの連絡をどういう方法でされたのか教えてほしい。これにこだわるのは、現在、ポンプアップして水を供給しており動力費がかかっている。自然流下にする事で、最少の費用で最大の効果を出してほしいと思っている。

また、平泉寺の湧水が80 m³/日となっているが、給水人口等を見てもっと多いのではないか。

全体の取水量だが16,713 m³/日となっており、1日最大給水量13,063 m³に対して余裕があることから、浄土寺川ダム浄水場を建設しての取水の計画については、令和12年度以降でよいと思う。

耐用年数がきた導送配水管を布設替えすると聞いたが、各橋梁で添架されているが、錆止めの塗装をすれば、耐用年数がきても使用できるため、最少の費用で最大の効果を出せるのではないか。

くらがり谷水源地から1,100 m³/日を取水しているが、スキージャンプがどれくらい使用しているのか、また、余った水はどうしているのか教えてほしい。

会長:議事録はこれで確定させていただき、質問ということで回答を事務局よりお願いしたい。

事務局:クリプトスポリジウムについては現状発生はしておらず、大腸菌といった指標菌が発生していると説明させていただいた。イノシシ等の死骸について説明した記憶はなく、イノシシ等の死骸の処分については当課では行ってないため情報収集に努めたい。

平泉寺の80 m³/日という数字は、認可上の数字でありそれ以上出ている可能性はある。

浄土寺川ダム浄水場の建設については委員の意見として参考にしたい。

耐用年数についてこだわっているわけではないので計画していきたい。添架管の錆について、水管橋の事故もあり、点検し錆止めの塗装を行っていく。

くらがり谷の水について、法恩寺では多い時で500~600 m³/日使用している。使用していない水は、雁ヶ原水系に水を持っていけるようになっており、膜ろ過で動力費はかかるものの自然流下で有効活用している。

委員：くらがり谷について、雁ヶ原水系に水を持っていけるのであれば、長山トンネルのところにあるポンプ設備は必要なかったのではないかと。施設を廃止にする等の検討をして答申書を作成してほしい。

3. 審議

・前回の質問についての回答（事務局説明）

委員：水道事業会計の財政シミュレーションについて、管路・設備の更新需要の平準化はどう関係しているのか。

事務局：3ページの本市独自基準で更新した場合の更新需要と、国庫補助がもらえるため、耐震化についても令和4年度から数年間行うシミュレーションとなっている。

会長：平準化もしているのか。

事務局：5ページの平準化しているパターンに則っている。

委員：5ページの平準化の表だが、前期は2億円程度で推移している。財政シミュレーションでは確か優先度をつけて耐震化をやっていかないといけないという説明だったが辻褄はあっているのか。

事務局：ご質問の趣旨は、老朽化と耐震化をどう平準化していくのかということだと思うが、耐震化は、老朽化した管の更新に併せて行っていきたい。耐用年数どおりではなく、耐用年数を超えて古く耐震化が必要なところを優先的に取り組んでいきたい。今回、耐震化で補助事業があることから、多少前倒しになるところもあるが重点的に進めていく。

委員：必ずやるということか。今の説明だと管が耐震化されていないと思われてしまう。旭町の添架布設替の箇所では、自由がきかない施工となっていた。説明していることとやっていることが違うのではないかと。

老朽化と言うが、今は部分的に掘削して配水管の状況を写真に撮るようなことができる業者がいるので調査した上で布設替えをしてほしい。

事務局：管の継手については、調査以前に耐震継手になっていないため耐震化が必要となっている。旭町の布設替の件については、管路を一体化しないといけないところである。

会長：委員の言うとおりのストックの調査は絶対必要である。ただ、この審議会では、今の意見について、答申書を出す際に、ストックの調査をし、効果を発揮できるようにと付記する等の調整をするということにしたい。

委員：当年度純利益の欄で令和3年度だけ純損失となっている理由を教えてください。

事務局：令和3年度は予算で記載している。コロナを踏まえた結果、給水収益が大きく減少したため純損失となっている。また、予算の支出額を全額支払う想定で記載しているため支出が多くなっている。この2点が原因である。

・水道料金についての意見集約

会長：水道料金について、これまでの議論を踏まえて、全委員に意見や感想を全委員にお伺いしたい。その前に事務局から説明をお願いしたい。

事務局：令和4年度から7年度で見ると、純利益が2,000万円以上出ている。また、現金預金残高については5~6,000万円程度減少するが令和7年度で7億円以上現金預金残高として残っている。企業債残高についても、この4年間で5~6,000万円程度増える見込だが21億円台となっている。最後にコロナの影響で経済的な影響が出ている方がいる。以上のことから早急に料金値上げをする必要はないと考え、今の料金を維持することとしたい。

委員：地下水をこれからも大事に使っていくことを啓発していくことが大事であり、水道料金も会計上据え置くということでもいいと思う。今後の老朽した管・施設に充てる費用をどの程度ストックしていくのが妥当な額なのかということを考えていく必要がある。

委員：事務局の据え置きという意見に賛成である。ただし、5ページの平準化の表をさらに平準化すると、毎年5億円程度必要となってくる。この費用を誰が負担するのか考えると、本当は今使用している人も負担する必要があると思うが、料金値上げを先送りするということはこの問題を先送りするということだと思う。しかし、今の段階で料金値上げをするというのは理屈が通らないと思い据え置きに賛成する。

副会長：令和4年度から7年度のシミュレーションを見て料金を据え置きに賛成する。他の委員が言うように、管の調査をしっかりとした上で更新を進めていただかないと将来に負担がかかる。

委員：水道料金については、今のところ値上げをする必要はないが、老朽化への対応には費用がかかるので、将来的には値上げをしないといけないと思っている。私はギリギリまで使うという考えは好きではない。耐用年数というのはそういうものなので、耐用年数がきてここは更新が必要だということころは順番にやっていってほしい。今は地震がいつどこで発生するか分からないので、行政にしっかりとやっていってもらえばいいと思う。

委員：社会福祉協議会では色々な生活の相談を受けており、上下水道料金は安いほうがいいと思っている。しかし、値上げをする必要があるものはしていかないといけないと思う。今後、人口が減ってきており、ここ4年を見て据え置きというのはいいと思うが、いきなり10%や20%という値上げとなるのであれば、1%ずつでも値上げするという考えもあると思う。

委員：子育て世代としては、生活費を削減したいという中で、料金値上げというより、むしろ値下げをしてほしいと思っている。しかし、管の耐震化、更新に対応していく必要があることは理解できる。人口減少など差し迫った状況ではないため据え置くというのは賛成する。

この議論や内容を若い世代や子育て世代などに、料金の据え置きというものがどのような背景があって決まったのかというのを市の広報等で分かりやすい資料で示してほしい。また、将来的に値上げをする必要があるのであれば、早いうちから、いつ、どれくらい値上げが必要なのかということのを市の広報等で示していく必要があるのではないか。

- 委員：水道に関して、この会議で説明されている内容について、理解が深まっていないため、意見は差し控えたい。
- 委員：使用者の代表としては料金は安ければ安いほどいいと思うが、話を聞いて安くするのは難しいと思っている。逆に値上げはとんでもないと思っている。
- 委員：値上げするのは簡単である。料金を維持するのが難しい。前回平成23、24年度に料金値上げをしているが、昭和56年度以来の値上げだったと思う。ケチで値上げをしなかったわけではない。何度も言うように、最少の費用で最大の効果を出してほしい。今の料金は高いと思っている。20年くらい維持してほしい。先ほど言った長山トンネルのところの施設は無駄だと思っている。また、平泉寺の水もポンプアップして配水池に上げる設備費用や維持管理費、自然流下で紫外線照射装置を設置した場合の費用、これをしっかり検討してほしい。いくつも計画を練って検討し、料金値上げをしないようにしてほしい。
- 委員：消費者団体の代表としては、料金値上げをしないでほしいと思っている。個人的には、将来的に人口が減り、給水収益が減る中で、管の更新費用等は人口が減ってもなくなるものではないと思う。和歌山のような事故が起こらないとも限らない。そのため、不測の事態に備えて蓄えておくことも必要だと思う。今回は据え置くけれども、次の審議会では、貯金を増やすことも含めた計画にして、水を使っている人がそれを負担していることを示したほうが、大事に水を使ってもらえるのではないか。次の審議会では、維持費分の料金を算入していき、少しずつ値上げをしていけば皆さん理解していただけるのではないか。
- 委員：市民が料金が高いとか安いとか理解しているとは思わない。一度値上げすると値下げをするのは難しいということだが、ガソリン代のように、上がったりがったりしてもいいと思っており、利益が出ていたら値下げするというような柔軟な発想を行政がしてもいいのではないか。また、資料が細かく言葉も難しい。審議する時には必ず課題があって、どんな問題点があって、それに対して現状があり、どういう要因があって、どう解析していったという1つの手法があるので、ストーリー性があると分かりやすい。あと、料金にしても、企業の場合は損益分岐点というのがあり、現状がどうで、上げるべきか下げるべきか、企業努力で抑えたいというところもある。行政としてもっと努力しているところをアピールしてもいいのではないか。
- 委員：水道料金の消費税がなくなると大きいのではないか。必要なもので消費税をとるのはおかしいと思う。
- 会長：本来は値上げをしないと厳しいのではないかと思う。料金回収率100%で運営していくのが本当だと思う。しかし、100%に向かうように改善していると思う。また、コロナの影響は大きく、生活もあるが事業者の負担はかなり大きいので、今年だけでなく、来年等も含めて負担を軽減せざるを得ない。現状維持でやむを得ない。全員の意見が出たので、事務局で整理していただき、答申をまとめてほしい。
- ・下水道事業会計の将来見通しについて（事務局説明）
- 会長：勝山市の経費回収率は正しい数値か。
- 事務局：そのとおり。
- 会長：8ページの経費回収率の定義だが、汚水処理費とはどれのことか。

事務局：汚水処理費は、維持管理費と資本費のうち汚水分のことだが、そのうち児童手当や臨時財政特例、特別措置分といった、一般会計で負担すべきものについては除いている。経費回収率はその汚水処理費が使用料でどの程度賄えているかという考え方である。

会長：次回、注意書き等で記載してほしい。

委員：シミュレーションで見るべきポイントはあるのか。

事務局：歳入について下水道使用料が減っていくということ、歳出について建設改良費、つまり勝山浄化センターの改築、下水管渠調査、三谷川浸水事業、広域化共同化事業という費用であるが、4億～5億円で平準化して考えている。最後に、先ほど説明した経費回収率がポイントになる。

委員：シミュレーションが分かりにくい。円グラフ等で示していただけられないか。費用負担のイメージ図と比較しても理解できない。

また、ストックマネジメント計画とは何か。

事務局：施設の状況を見て、リスク調査をし、今後どうなっていくか評価をし、優先度をつけ、調査を行って修繕をしていく計画である。

委員：義務付けられているものなのか。

事務局：これを策定しないと、国庫補助がもらえない。

委員：イメージの金額の大きさはあっているのか。使用料より一般会計負担金が多い。

事務局：あくまでもイメージである。

会長：それも宿題でお願いしたい。7ページの水洗化接続率を0.5%で見込んでいるが、これが妥当か分からないので、次回、水洗化率のこれまでの推移を出してほしい。

委員：雨水と汚水とあるが、雨水は雨が降った時に、下水に流入する量ということか。また、他市における経費回収率の100%を超えている部分は何か。

事務局：勝山市では下水に流れるのは汚水だけである。雨水は流雪溝など流れるもので、雨水と汚水を分けているのが分流式というものである。雨水の流れる管が1割、汚水の流れる管が9割ということ。汚水管に雨水が流れこんでいるという意味ではない。雨水の1割については、一般会計に負担してもらっている。また、経費回収率の件だが、将来の管や設備の更新のためのストックだと考えている。

会長：次回は下水道使用料の他市比較を再掲して説明してほしい。

閉 会